

基幹研修Ⅰ シラバス

研修名	I	対 象	概ね入会1年度目以上3年度未満までを主たる対象とするが、上限は設定しない（非構成員も受講可能）
獲得目標			本協会構成員の基本的な知識として、「本協会の歴史と役割」について、我が国における精神科医療・保健福祉の歴史的課題を背景にした国家資格制定にかかわる経緯と専門職団体の使命を踏まえ、現状と課題を理解する。 精神保健福祉士の活動領域と実践の実際を学び、専門職としての主体性を考える機会とするとともに、精神保健福祉士の基本的な「社会的責務」について理解する。また精神保健福祉士の価値と倫理について再確認し、自らの専門性について深める機会とする。 総じて、所属機関における専門性の発揮に必要な基盤を獲得することを目指す。 ※この研修は、本協会の組織課題である入会促進をもねらいとしている。
Key Word			精神保健福祉士の主体性を学ぶ、社会的責務 専門職としての精神保健福祉士、倫理綱領と精神保健福祉士の価値

講 義 及 び 演 習				
講義 1	テーマ	公益社団法人日本精神保健福祉士協会の役割と課題		
		本協会の歴史を学ぶことにより、職能団体として果たしてきた役割や精神保健福祉士（あるいは、社会福祉専門職）として所属機関を越えた連携の必要性の理解を深める。また、精神障害者の社会的復権に向けた起点となった「Y問題」の意味づけ、精神保健福祉士の国家資格化の経緯など、精神保健福祉士法が成立したわが国の精神保健福祉の現状と背景を学ぶ。同時に法の内容等を歴史的・実践的な視点から理解し、現在の本協会の役割と課題について理解を深める。 【目的】 本協会の歴史を学ぶ必要性について理解するとともに、精神保健福祉士として専門職団体に所属する意義について理解を深める。 公益社団法人日本精神保健福祉士協会の歴史を振り返り、国家資格化の経緯を理解するとともに、「Y問題」から構築した精神保健福祉士の価値を理解する。 協会活動を理解し、本協会の役割と今後の課題について理解する。 【内容】 第1章 公益社団法人日本精神保健福祉士協会の役割と課題（基幹研修Ⅰ） 公益社団法人日本精神保健福祉士協会の役割と課題		
	Key Word	本協会の歴史を学ぶ必要性 公益社団法人日本精神保健福祉士協会の歴史		
	テキスト	第2版P190～203 改訂第2版P192～206	時間	90分
講義 2	テーマ	精神保健福祉士の専門性Ⅰ		
		精神保健福祉士は、ソーシャルワーカーであり、その専門性の構成要素である価値が実践の拠り所となることはいままでのない。また、精神保健福祉士の倫理は職業人としてのあり方を規範として規定したものである。 精神保健福祉士の価値としては、「精神障害者の人権の尊重」、「クライアントをとらえる視点としての『人と状況の全体性』」、「生活者を支援する視点」、「自己決定の尊重」などがある。 精神保健福祉士の倫理は、秘密保持など精神保健福祉士法に定められている他に、倫理綱領には「ソーシャルワーカーとしての立場性」、「クライアントに対する責務」、「同僚や機関に対する責務」、「社会に対する責務」などが取り上げられることが多い。 PSWの倫理綱領は、1988年に最初に制定されてから、数回の改訂後、2018年6月に現在の精神保健福祉士の倫理綱領として改定されている。この倫理綱領は「Y		

講義 3	問題」の教訓を生かして、協会が制定したものであり、その後、「地位利用の禁止」および「機関における責務」の規定が追加された。さらに、現在は「国際ソーシャルワーカー連盟倫理綱領」「日本ソーシャルワーカー協会倫理綱領」の改定の動向を検討し、国家資格化された精神保健福祉士にとって必要かつ実践的な内容に深められ、全面的に改定されている。 講義 2 では、精神保健福祉士の基本的な価値と倫理について、倫理綱領の内容も含めて理解を深める。 【目的】 精神保健福祉士としての自らの実践が、精神保健福祉士の価値と倫理に基づくものでなければならないことを理解する。 精神保健福祉士としての立脚点を確認するため、医学モデルと異なる視点である生活モデルについて、特に I C F（国際生活機能分類）を踏まえて理解する。 精神保健福祉士としての専門性に基づくかわりについて、自己決定の尊重、権利擁護の視点、人と状況との全体関連性と生活者支援の視点から理解する。 本協会の倫理綱領制定の経緯を講義 1 とも関連させて理解する。 専門職としての研鑽の必要性を再確認し、スーパービジョンの活用方法を理解する。 【内容】 第 1 章 精神保健福祉士の専門性 I（基幹研修 I） 価値に根ざした実践とは 1 精神保健福祉士のアイデンティティとは 2 専門性に基づくかわりとは 3 倫理綱領を知る 4 専門性の維持・向上のために			
	Key Word	精神保健福祉士の価値、生活モデルと I C F、精神保健福祉士のかかわり論、倫理綱領、自己研鑽		
	テキスト	第 2 版 P 4 ～ 2 6 改訂第 2 版 P 4 ～ 2 6	時間	9 0 分
	テーマ	精神保健福祉士の実践論 I		
	精神保健福祉士の活動領域は、精神科医療機関から地域の精神障害者生活支援施設、精神保健福祉センター・保健所、都道府県庁・市町村等の行政機関、さらに高齢者施設や一般医療機関、社会福祉協議会など多岐にわたる。 実践論 I では、精神保健福祉士の活動領域の広がり、各活動領域に共通する精神保健福祉士の業務について、普遍的に堅持すべき基本的な視点を、講義を踏まえて実践的に再確認することを目指し、講師による実践の語りのほか、多様な領域に所属する精神保健福祉士による学びと連携のためのシンポジウムを行ってもよい。 また、本協会における各種委員会活動によって蓄積された知見に関する理解を深めたり、近年拡大している、いわゆる新領域とされる精神保健福祉士の活動領域における役割等にも理解を深める。 【目的】 精神保健福祉士として求められる基本的な日常業務と役割を理解する。 クライアント（利用者）とのコミュニケーション、ニーズの重要性を再認識し、ソーシャルワークの基本原則に基づいた実践の在り方を理解する。 多様化する活動領域と各領域での実践展開と特殊性を理解するとともに、ソーシャルワーク実践の共通基盤を習得する。 【内容】 第 1 章 精神保健福祉士の実践論 I（基幹研修 I） 1 すべてはコミュニケーションから 2 文章を書く能力 3 クライアントのニーズから出発する			

	4 実践のなかで権利擁護の視点がもてる 5 クライアントへの責任 6 秘密保持—個人情報情報の取扱いの観点から— 7 社会人としてのマナー 8 悩み方と自己研鑽 【進行方法】 講義形式の他、多様な領域における精神保健福祉士によるシンポジウム形式も有効である。ただし、シンポジストの発言には 【内容】 を踏まえた実践に関して盛り込むことを条件とする。			
	Key Word	精神保健福祉士の活動領域と実践、クライアントとのコミュニケーション、クライアント主体の支援、権利擁護、個人情報と秘密保持		
	テキスト	第2版P76～108 改訂第2版P76～108	時間	90分
演習 I	経験の浅い精神保健福祉士は、教育機関で学んだことと現実の精神保健福祉現場の状況、いわゆる「理想と現実」のギャップの中で不安に感じたり、精神保健福祉士としての基本的知識や実践的な能力についての自信のなさから孤立感を抱いたりする。そのことを専門職としての成長における必要なプロセスとして受けとめることができるよう、グループ討議において悩みや不安を言語化し、相互の共感や労いを通して実践への活力を養うことを目指すとともに、特に同年代、近接地区に勤務する精神保健福祉士同士での情報交換や、率直な語り合いを通じた今後の連携の足掛かりを構築する。 【目的】 グループ討議を通して、 ・互いに知り合い、支え合う雰囲気づくりを醸成する。 ・自らの精神保健福祉士としてのあり方や自分の職場を客観視する。 ・自己の感情や考察を言語化し、自己理解を深めて自らの実践課題を知る。 【進行方法と内容】 進行にはグループリーダーを配置することを原則とし、参加者を6～8人程度のグループに分けて以下の内容での話し合い、意見交換を行う。 ・自らの職場の紹介を兼ねて自己紹介を行い、日頃の実践を肯定的に受け止める事を前提に、どのようなことで悩み不安に感じているのかを話し合う。 ・講義の感想や講義を通じて自身の課題と感じたことを話し合う。 ・研修全体を通じて学んだことや今後の実践に向けた抱負を話し、研修の振り返りを行う。			
	Key Word	自己理解、相互理解、相互支援、課題の言語化、研修の振り返り		
	時間	90分		